

あおやましんめい

青山神明遺跡(本発掘調査B)

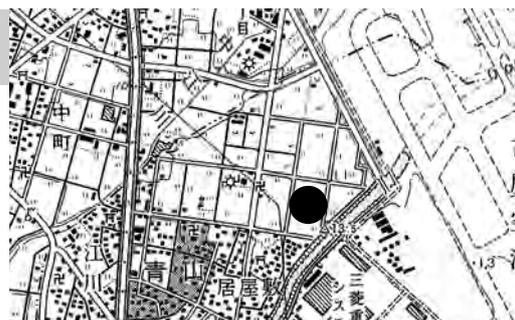
所在地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内
(北緯35度15分38秒 東経136度54分52.18秒)

調査理由 中小河川改良事業(一級河川大山川)

調査期間 令和6年5月～9月

調査面積 7,000㎡

担当者 永井宏幸・鈴木恵介・梶田真由



調査地点(1/2.5万「小牧」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局河川課による大山川調節池の工事に伴う事前調査として、愛知県民文化局より委託を受け、令和6年5月～9月まで実施した。調査区は令和5年度の23C区に隣接する場所である。調査面積は、7000㎡でA区2800㎡、B区4200㎡に分けて調査を行った。

立地と環境 青山神明遺跡は西春日井郡豊山町青山神明地内に位置しており、小牧市から続く低位段丘上に立地する。本遺跡の南東側には大山川、南西側には中江川があり、挟まれている。標高は約10mである。

調査の概要 A区は、主に中世の土坑、井戸、近世から近代までの溝が見つかった。土坑(10162SK)は、約50cmの小型の円形土坑で上部から尾張型山茶碗が見つかった。井戸は6基見つかり、その中でも10395SEは深さが1.5mあり、下層で尾張型山茶碗が完形で1点出土している。また、10380SEでは、埋土から尾張型山茶碗が4点出土したが口縁や胴部分が欠損していた。

近世から近代までの溝は、昨年度の23C区で確認されていた近世の溝6条と近代の道路跡の延長部が確認された。近代の道路は調査区の中央付近で南西方向に曲がるのが明らかとなった。

B区 B区は、主に湿地状の堆積と弥生時代の土坑を確認した。湿地状の堆積は4層に分かれる黒色土で、調査区の中央付近から南側にかけて確認された。1層目は土師器甕や須恵器有台杯などが出土したが、最下層からは山茶碗が出土したため、中世以降に堆積したと考えられる。

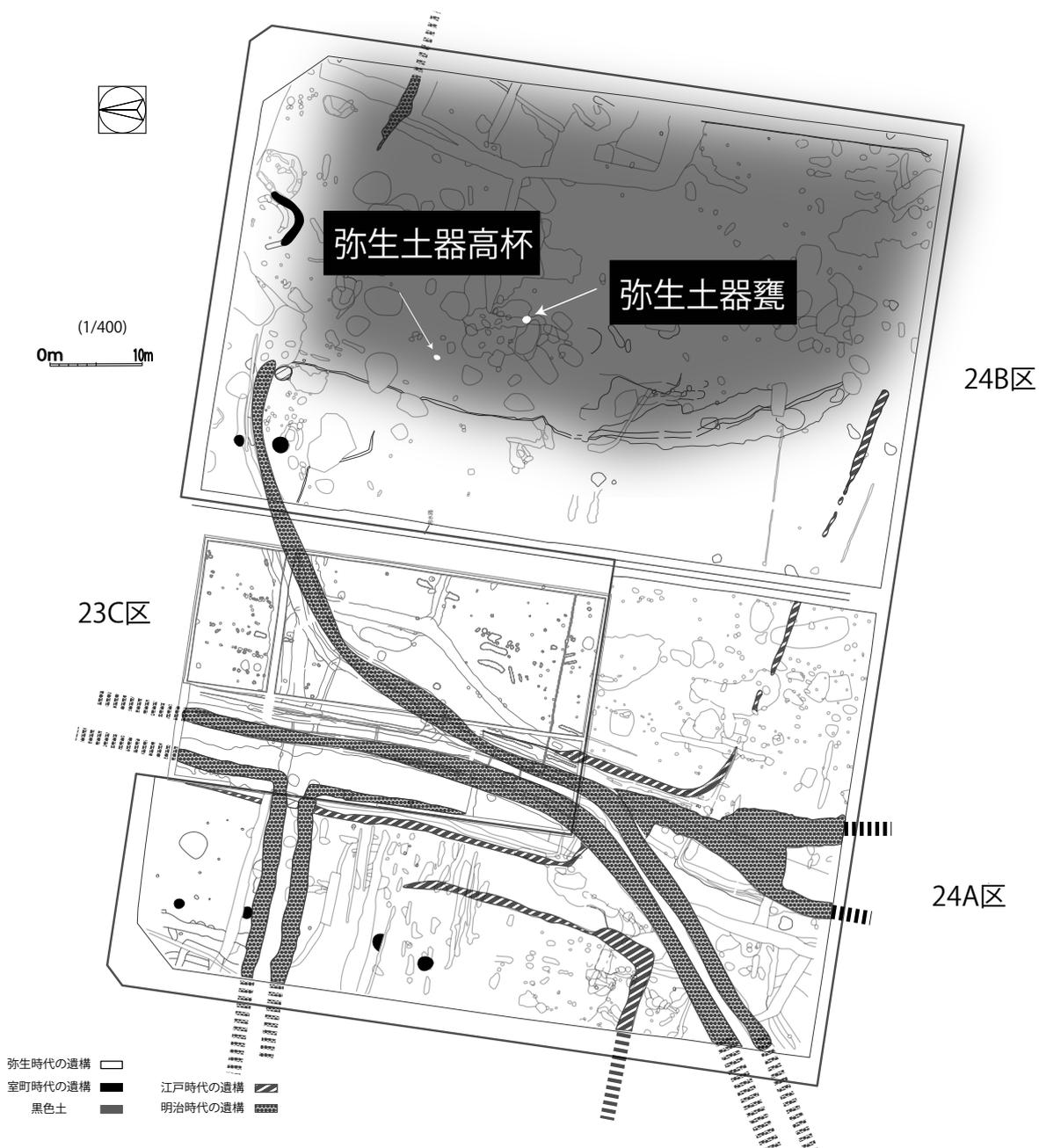
弥生時代の土坑は、B区北側付近で2基確認されている。00200SKは、小型の円形土坑で深さは0.3mと浅い。遺物は弥生時代前期の遠賀川式土器甕の口縁部が出土した。これまでの青山神明遺跡全体の中で、一番古い遺物である。

00200SKの北側10mの地点で検出された00119SKは、00200SKと同規模で、弥生土器高杯が出土した。しかし、口縁部が欠損しており、詳しい時期は明らかでない。

B区南側では、近世頃の結桶が見つかった。板は20枚でたがも確認されている。地面の削平の影響で約60cmしか残っていない。

まとめ 以上のことから、青山神明遺跡24A・B区は、湿地状の堆積周辺に中世から近世、近代にかけての集落跡が営まれていたと考えられる。

(鈴木恵介・梶田真由)



調査区全体図 (S=1/400)



井戸 10380SE 遺物の出土状況



B区調査風景